

スポーツボートを 100 パーセント知る。遊ぶ。使いこなす。

SPORTS BOAT First Drive AR240

はじめての
ジェット推進ボート

ボート遊びの新スタイル

YAMAHA Marine Club
Sea-Style

スポーツボート AR240 の 航走特性を正しく理解しよう

この度は YAMAHA スポーツボート AR240 をご利用いただきありがとうございます。

YAMAHA AR240 はジェット推力艇ならではの優れた運動性能を有したスポーツボートですが、その魅力を十分に引き出し安全にマリンプレイを楽しんでいただくためには、この艇の特性を正しく理解していただく事が大切です。

本パンフレットでこの AR240 の特性を理解し、正しく、安全にマリンプレイを楽しみましょう。

AR240 の魅力

圧倒的な動力性能

他艇の追従を許さない高速クルージングスピード。

優れた立ち上がり加速性でトーイングプレーのグレードをアップ

安定した直進性とハンドリング追従性を両立

AR240 は魅力的な要素を全て備えたジェット推進のスポーツボートです。

力強い180馬力エンジンを2基搭載したAR240は搭載位置が艇体中央部に寄せられ理想的な重量配分となっていることに加えドライブのような抵抗物が水面下に存在しません。



この理想的なレイアウトにより優れた直進性能や素直なハンドリング、そしてハンプを抑え、推力を無駄にすることなく加速力に費やすことを可能にしています。

水面下の抵抗が少ないので燃料フル積載状態であっても高速クルージングが可能であり燃費の良い航走ができます。

アメリカンクラフトマンの手によるこだわりのデザイン。そして仕上げ。

ウェイビーなデッキトップのライン、まるで構えるように前傾させたアグレッシブなゲート。

そのオリジナリティ溢れるボディデザインはアメリカのクラフトマンによるものです。

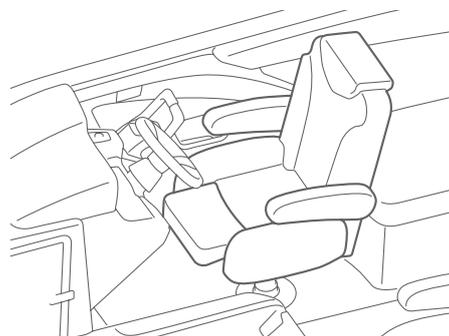
そのこだわりはデザインのみならず細部の仕上げにも現れています。



快適なドライビングを約束する装備

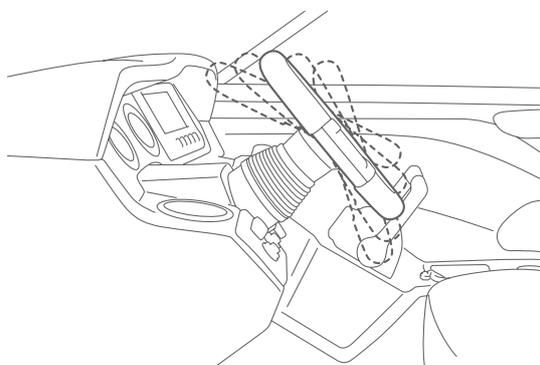
ドライバーに合わせたドライビングポジションをシートに設定することができます。

ドライバーの目線高さや体型に合わせたポジションを設定することで最適な操縦性を確保するのみならずロングツーリングでの疲労を軽減します。

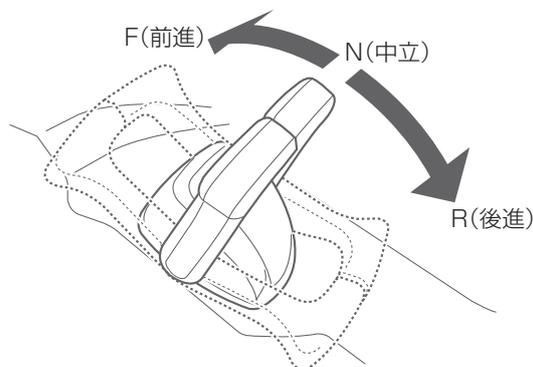


アームレストリクライニング機能で快適なドライビングを

またドライバーの姿勢や構えに応じてハンドル角度をワンタッチ調整することもできます。ハンドルは少ない転舵数（1周半でフル転舵）で安定した操縦性を実現しています。



リモコンレバーのみでシフトとスロットルの両操作ができる“1（ワン）レバー”システムを採用しました。シンプルかつ直感的な操船が可能です。



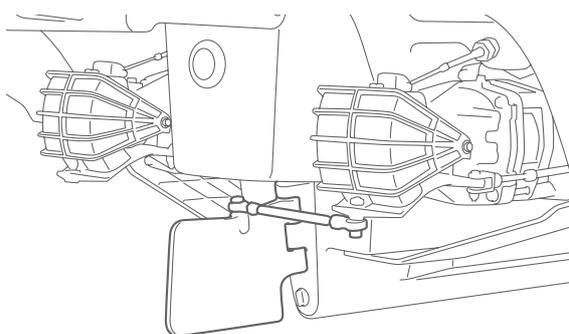
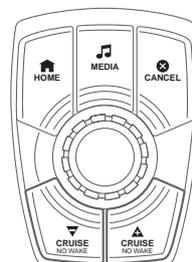
ジェット推進艇のウィークポイントに対応。

着岸性が飛躍的に向上

ジェット推進艇にとって着岸は難しいと言われてきましたが AR240 はこれを大幅に改善しました。

TDE およびノーウェイク機能の使用により難なく着岸を可能とします。

ノーウェイク機能は、最徐行が必要なエリア（マリーナ内の桟橋周辺や水路等）で微妙なアクセル操作による速度調整の負担を軽減し、安定した低速走行をサポートします。



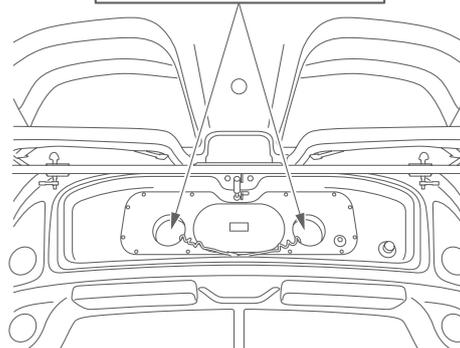
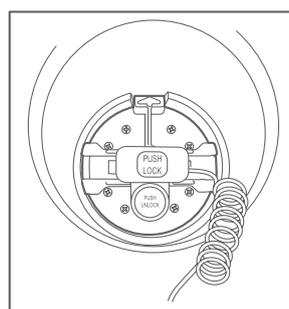
舵効果を確認

キールの後方に、ジェットポンプノズルと連動する可動式キールを装備。さまざまなスピード域における保針性を高めるとともに、低速走行時における舵効きを向上。離着岸などの細やかな操船も直感的に行えます。

アクセスポートキャップで巻きつきトラブルに対応

一般的なジェット推進艇は水面の異物をジェットインテークから吸い込みシャフトに絡みつけてしまうことがあります。シャフトに絡みついた異物を取り除くことは、とても大変な作業となります。AR240 なら船尾にアクセスポートキャップを装備しているので、このような作業を容易に行うことが可能です。

※必ずエンジンを停止して作業してください。



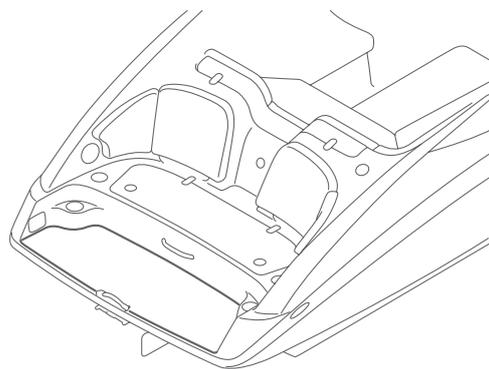
ユーザーフレンドリーな機能群

AR240 の魅力はその素晴らしい動力性能のみにとどまりません。家族やゲストにも快適なマリンプレイを楽しめるよう細やかな配慮が施されています。

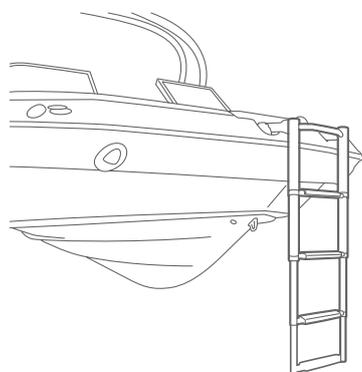
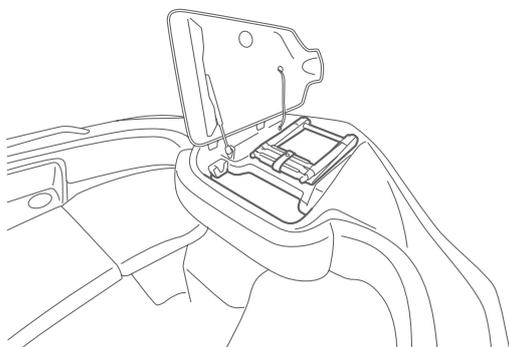
親水性に富んだスイミングプラットフォームとラダー

スイミングプラットフォームを限りなく水面に近い高さに設定。素足に心地良い素材のシーデッキマットを採用、親水性に優れ快適なウェイクプレイを約束するスペースです。

※ テーブル配置やオーディオ操作ができるリモコンやスピーカーもスイミングプラットフォーム付近に集中装備。24 フィートサイズの船でありながら幅が 2.6m もある AR240 は他の船と比較して素晴らしいマリンプレイへの対応性や居住性を実現しました。



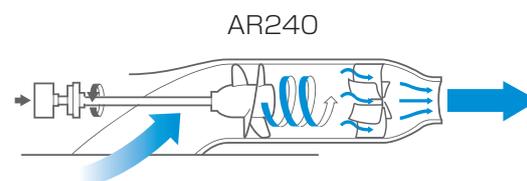
またラダーを船尾だけでなく船首にも装備、停泊状態での水辺での楽しみの幅が広がっています。



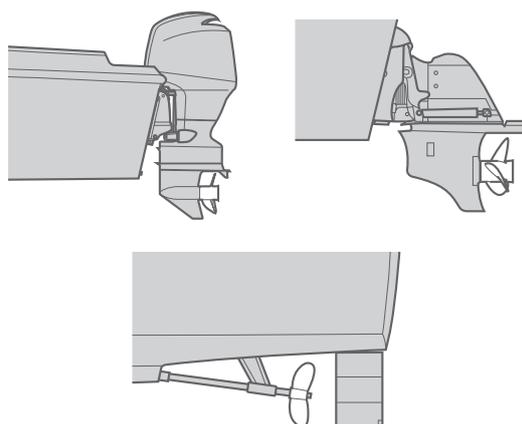
※ 遊泳時は、必ずエンジンを停止してください。

船外にプロペラ露出がない

ジェット推進艇である AR240 は、プロペラが船外に出ていないため、ウェイクボードなど船外でマリンスポーツをされている人が、回転するプロペラに直接触れるリスクがありません。



一般的な推進艇



ウェイクプレイのスキルアップにも一役

AR240 はトーフック金具をビミニトップ上の位置にセットしました。

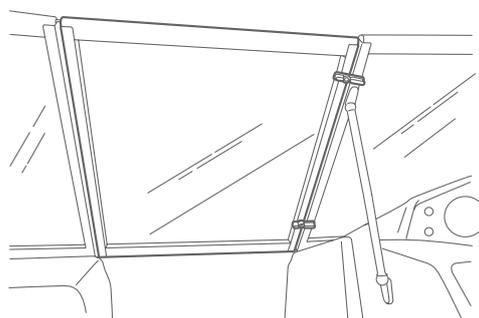
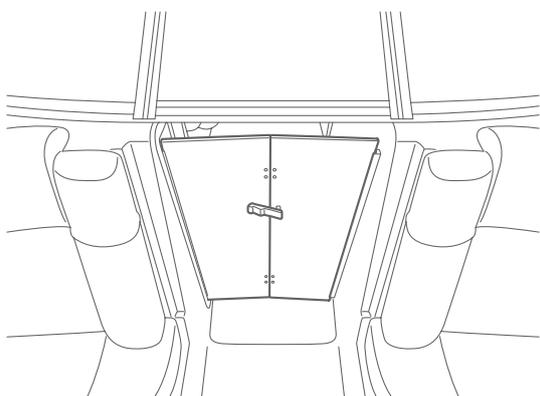
これによりウェイクボーダーを上方向から引き上げることが可能となり、ウェイクプレイの立ち上がり動作がスムーズに行うことができます。

優れた立ち上がり加速性と合わせてウェイクボーダーのスキルアップに大きな効果を期待できます。



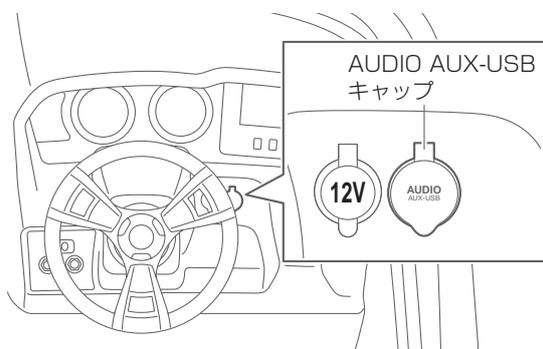
風をコントロールする爽快なレイアウト

フロントウィンドウや仕切りドアの開閉によって
コックピット周囲における風の流入を好みに合わせ
てコントロールすることができます。



お気に入りのサウンドでマリンプレイを演出

AR240 のオーディオは Bluetooth 機能搭載。
お気に入りのサウンドでマリンプレイをよりエキ
サイトメントに演出することができます。



航走中でも会話が楽しめる静粛性能

AR240 は搭載エンジンが 4 サイクルエンジン
であることに加え、エンジンルーム内に高レベ
ルな防音対策が施されています。航行中でも通
常の音量で会話ができます。

ソフトな凌波性

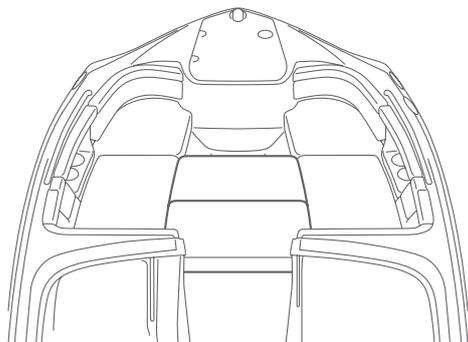
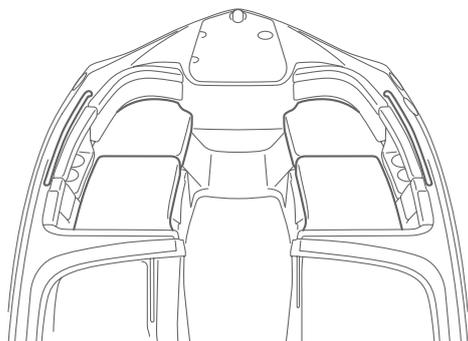
船首船型が幾分鋭いデッドライズ（船底V角）になっていることと、船底に長めの固定キールを設定していることで波間の衝撃を大きく和らげています。

AR240 は圧巻の動力性能からは想像できないほどのソフトな乗り心地を実現しています。



ユーザーフレンドリーな設計

足を伸ばし、風、太陽、そして海を思い切り感じる



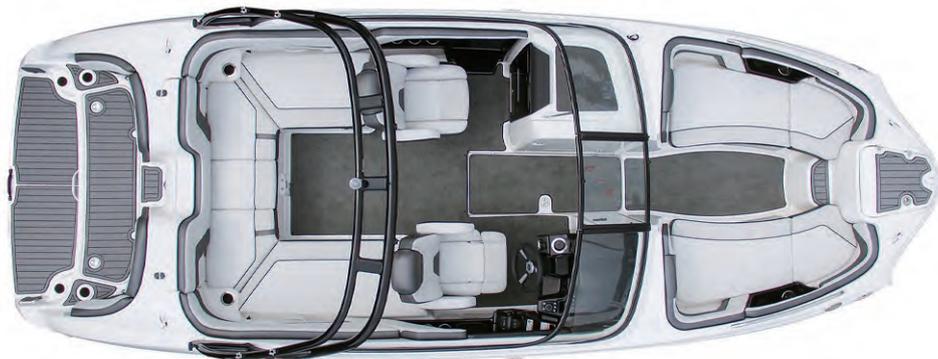
バウエリアは対面式で座ることができます。フィラークッションを中央部にセットすることでバウエリア全体をフラット状態にすることができ、まるでロングソファのように前向きで足を伸ばすこともできます。

※航行中はバウエリアをフラット状態にして使用しないでください。



定員 11 名でも余裕のデッキレイアウト

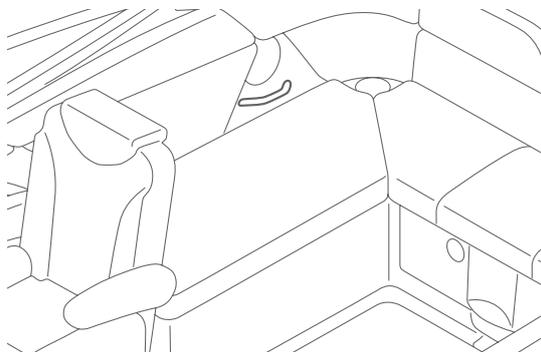
AR240 は余裕の幅広デッキ。定員全員が難なく着座でき、航走中でも無理な姿勢をとることなく AR240 の軽快な航走を楽しめます。



優れた動力性能だからこそその配慮。ハンドグリップ。

天候が悪く波が高い時、旋回や他船の引き波を通過する際などに、同乗者が体勢を崩すことがあります。

この AR240 はそれに対して各座席部に同乗者が体を保持できるハンドグリップ（ハンドベルト含む）を設定しています。



ドライバーへの細やかな配慮

初めてのドライビングでも安全に楽しんでいただくための対応

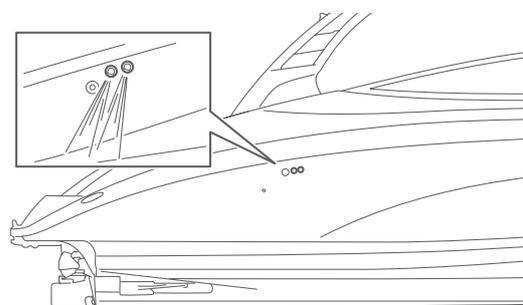
AR240 を初めて使用するドライバーのためにマリーナスタッフによる安全レクチャー実施のシステムなどがシースタイル艇には確立しています。

また着岸要領やマリーナの電話番号を記した必須資料を船内に保管しています。是非これらを活用してAR240 の魅力を十分に引き出して安全にマリンプレイをお楽しみください。

パイロットウォーターの確認が容易に

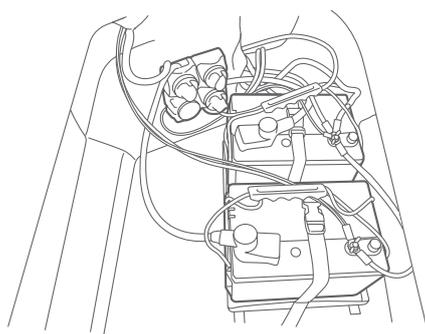
エンジンに正しく冷却水が供給されていることを示すパイロットウォーター。

AR240 は右舷側面からパイロットウォーターを吐出します。これならドライバー位置から容易にパイロットウォーターの目視確認が可能です。



まさかのバッテリーあがり（過放電）にも対応

海上停泊中に万一バッテリー過放電になってしまった場合でも、このトラブルをAR240ならエマージェンシーバッテリーで対応することができます。

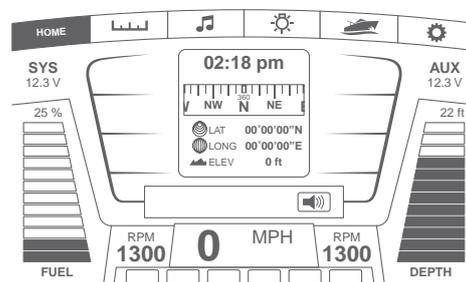


コックピット・マルチファンクションディスプレイ

コックピットダッシュパネルの7インチカラータッチスクリーンで任意に操船スタイルを設定。

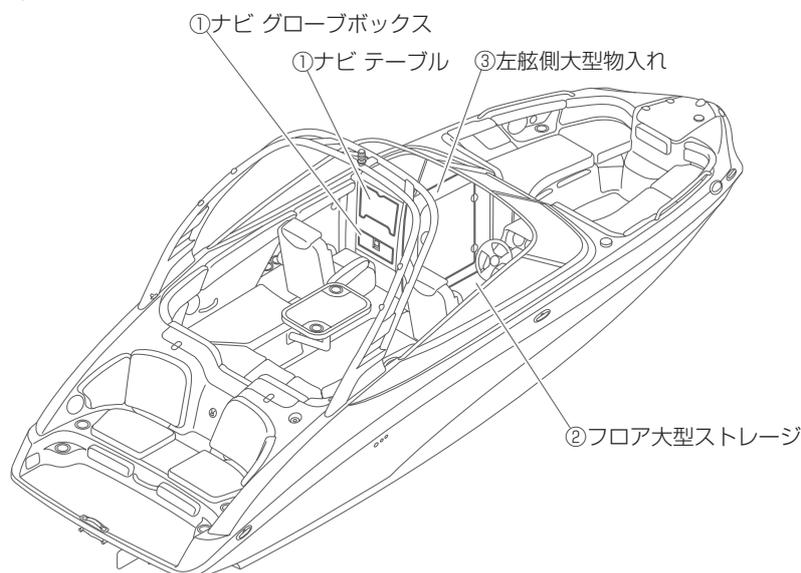
ジョイスティックで手軽に設定することもできます。設定操作をマスターすることで AR240 をより幅広く楽しむことができます。

そしてダッシュパネルのスポーツメーターはアグレッシブな雰囲気盛り上げます。



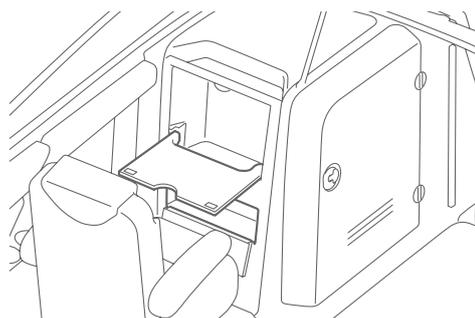
AR240 のストレージおよびインテリア

主なストレージ



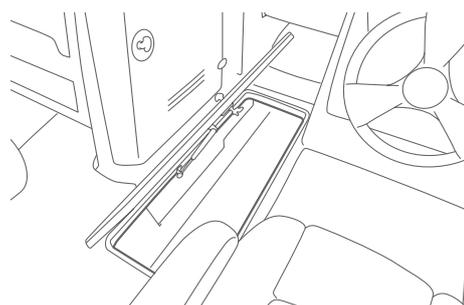
①ナビ グローブボックス / テーブル

ナビシート前にはグローブボックスやテーブルを装備しています。ドリンク類などを入れておけば休憩時などにすぐに取り出すことができます。



②フロア大型ストレージ

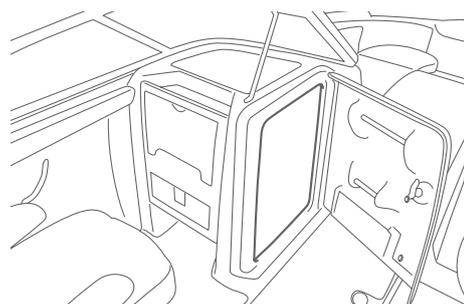
フロア中央には大型の物入れを装備しており、長物のウェイクボードやトーイングギアなどのマリネグッズをまとめて収納可能です。



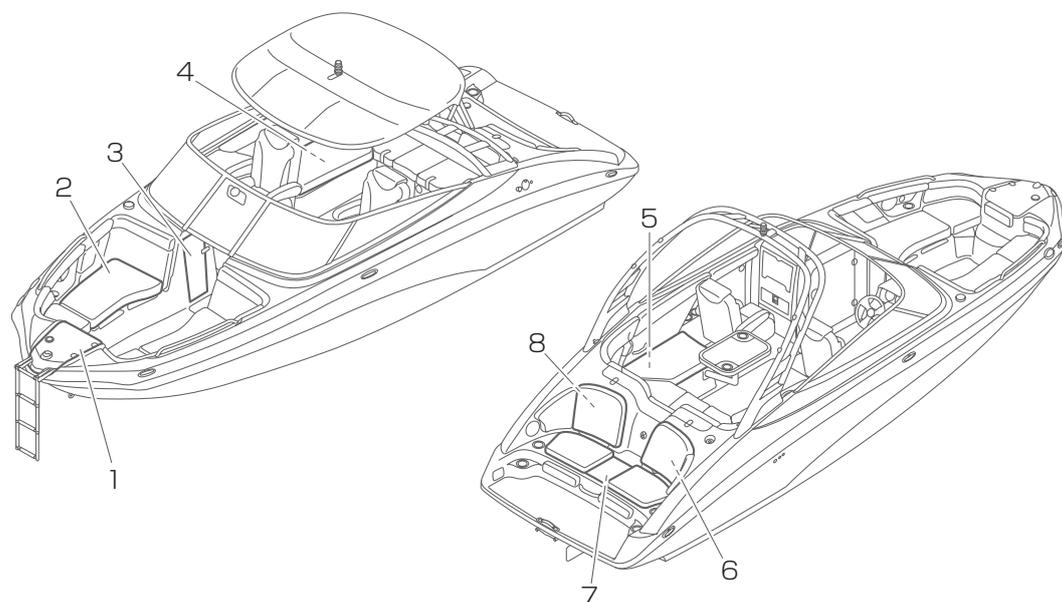
③左舷側大型物入れ

左舷側前区画室が広く、ポータブルトイレのセットも可能。(内部には照明も設定されています)

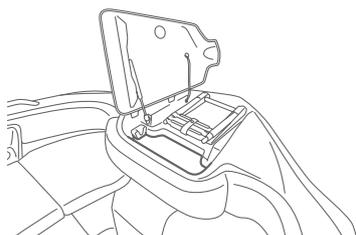
※ トイレの装備につきましては、マリーナにお問い合わせください。



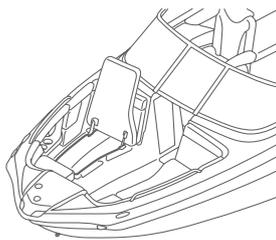
その他ストレージ



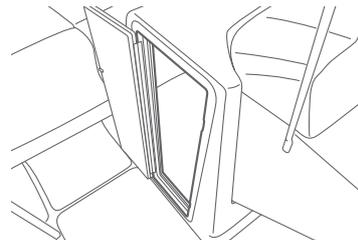
1 アンカー物入れ



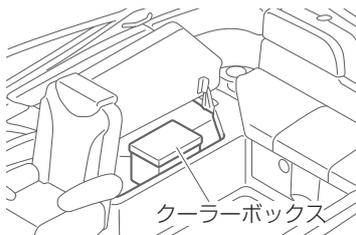
2 パウシート下物入れ



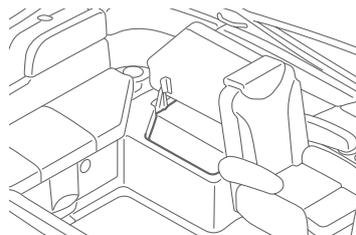
3 ドライバーシート側物入れ



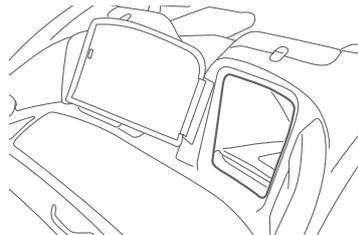
4 スターンシート下物入れ (右舷)



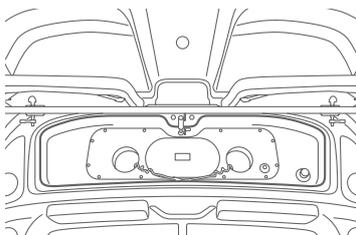
5 スターンシート下物入れ (左舷)



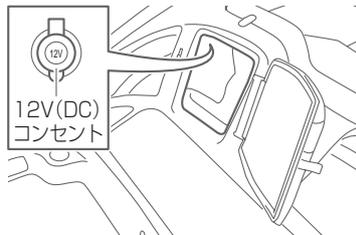
6 スターン物入れ (右舷)



7 ウェット物入れ



8 スターン物入れ (左舷)



※ご利用後のストレージへの忘れ物にはご注意ください。

安全に関して

P.1

1. 限定沿海エリアの航走
2. 海上航走マナーを守る
3. トーイングプレイ時のウェットスーツまたはウェットボトムを着用
4. 航走中は周囲の安全確認
5. マリンプレイ時の注意
6. 海事法令の厳守
7. 緊急エンジン停止コード装着
8. 同乗者への労わり
9. 同乗者への注意喚起
10. 船尾付近での遊泳時はエンジン停止
11. 日没後や視界不良時の対処
12. 水深の確保
13. 携帯電話等、通信手段の確保
14. 航走時はロックの徹底
15. 燃料給油は給油ガンを使用

AR240の航走特性について

P.7

スポーツボートならではの旋回特性

1. 低速時の舵切れ特性について
2. 減速時の注意
3. 惰性航走について
4. リモコン中立時の特性
5. ハンドル転舵について
6. 曳航もしくは片舷エンジンのみの航走は低速で
7. 波高40cm強の海面の走り方
8. 低速時の舵効き向上機能の活用

各部の取扱について

P.12

1. バッテリーメインスイッチ操作方法
2. フロントシートをフラット状態にする
3. 操船席後部のシートクッションの脱着
4. パイロットウォーターのノズル先と排水
5. ジェットインペラ一点検口キャップの取り扱い
6. 航走時の点検口ハッチについて
7. ロープ整理の徹底
8. クルーズアシストモードの活用
9. 係留保管は出来ません

安全に関して

1

限定沿海エリアの航走

この船は限定沿海仕様です。

限定沿海：陸から5海里以内かつ母港から2時間以内で往復可能の水域

たとえ限定沿海水域であっても水面が荒れていたり天候の悪化が予想される場合は航走を避けてください。



2

海上航走マナーを守る

海上航走は法令を守ることが当然ですがそれに加え周囲に迷惑をかけない航走を心がけてください。

海を生活の場にする漁業関係者や近隣住民あるいは、家族で遊泳やマリンスポーツを楽しむ人たちのためにも周辺の水面では乱暴に遊走する行為は避けましょう。

3

トーイングプレイ時のウェットスーツまたはウェットボトムを着用

ウェイクボードやチューブなどのトーイングプレイを行なう場合は、プレイヤーの身体を保護できる衣服を着用してください。

落水による水面からの衝撃やジェットノズル付近で強い噴流を受けた場合、通常の水着では下半身開口部の十分な保護にはなりません。身体保護のできるウェットスーツボトム等を必ず着用してください。

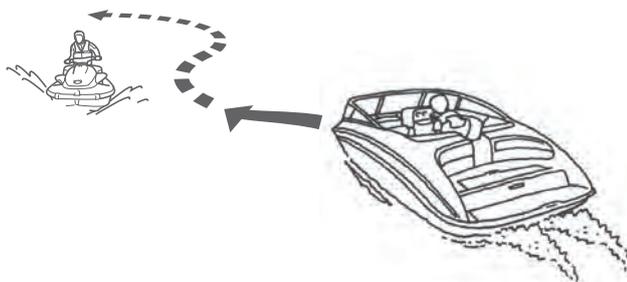


ウェットスーツボトム

4

航走中は周囲の安全確認

AR240は80km/h近い速力が出るうえに急減速転舵時にジェット推進艇特有の特性が現れます。常に前方の安全を確認し、先だった回避行動を徹底してください。



5

マリンプレイ時の注意

プレイヤー同士の衝突やラインの巻き込みなどの事故が多発しています。他の往来船と接近することのないよう位置を常に確認し、後方のプレイヤーにも注意をはらい、速力調整や安全な旋回に努めてください。また、浮いているラインを横切る動作はジェットユニットへの巻き込み事故につながる恐れがあるので最大限避けてください。

6

海事法令の厳守

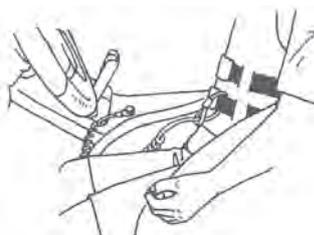
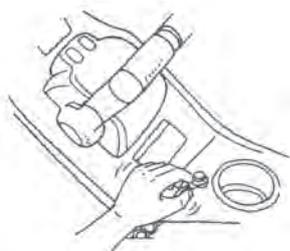
飲酒操船・危険操船の禁止はもちろんですが、釣りやアンカリング時の黒球掲揚、免許所持者以外の操船禁止等の法令は必ず厳守してください。また乗船者全員のライフジャケット着用は船長の重要な役割です。これら海事法令を厳守しないと重大な結果に繋がりがねません。海事法令を厳守してください。



7

緊急エンジン停止コード装着

緊急エンジン停止コード（赤色のカールコード）を正しく装着することで操船者が運転席から落水しても暴走を防ぐことができます。航走時には緊急エンジン停止コードを必ず装着してください。



8

同乗者への労わり

急ハンドルや急加速などの危険な操作は同乗者の姿勢を崩してしまいます。

同乗者に不快な動きとなるような急激な操作は慎んでください。また、荒れた海面での乱暴な操船は同乗者に大きな衝撃を与えることになるので、大きくジャンプしそうな場面は速力を落してください。



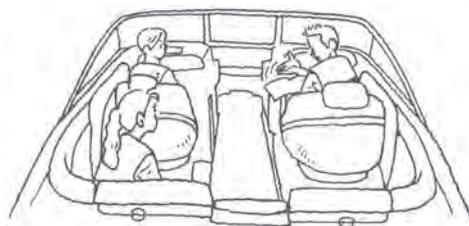
9

同乗者への注意喚起

同乗者に着座してハンドグリップ等をつかむように指導し、旋回や他船の引き波を通過する際は、必ず声を掛け、その旨を知らせ、速力を落としましょう。

また、同乗者も艀装品を扱う場合がありますので、安全や正しい操作のため、艇に貼られている重要なラベルや取扱説明書の内容をよく説明してください。

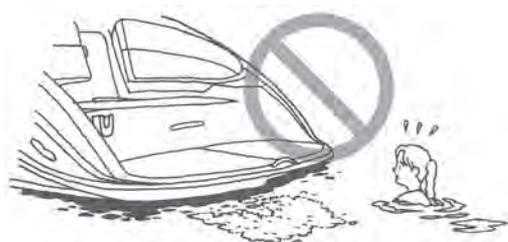
船舶免許を取得している同乗者であっても、シースタイルのAR240操船指導を受けた方以外には操船をさせないでください。



10

船尾付近での遊泳時はエンジン停止

ジェット部の水を吸い込む「インテーク」に遊泳者の衣服が吸い付けられる危険性があります。船尾付近に遊泳者がいる場合はエンジンを停止してください。



11

日没後や視界不良時の対処

AR240は航海灯が装備され夜間航走することが可能ですが、シースタイル艇は夜間の航走を規定により認めておりません。

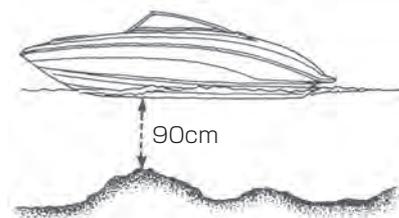
やむをえず日没までに帰港が間に合わなかったり濃霧で視界が悪くなった場合は、直ちに停泊灯を点灯のうえ停泊し、ホームマリーナに携帯電話などで救助を要請してください。



12

水深の確保

海底の異物を吸い込む可能性があるため、水深が90cm以下の浅い海面での高速航走は避けてください。この船は水深アラーム機能が装備されていますが、水深アラーム機能はあくまでも補助装置です。アラーム音に気付いてから速力を落としても、惰性力から回避できない恐れがあります。アラーム機能を過信することなく操船者の判断で余裕ある水深での航走を心掛けてください。



13

携帯電話等、通信手段の確保

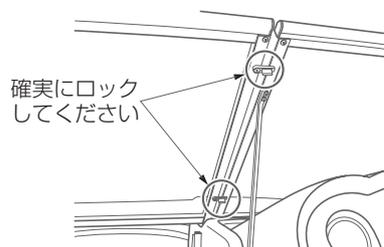
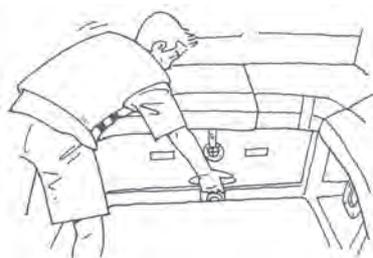
携帯電話を利用することで気象変化や水域の情報が入手できるばかりかマリナーや海上保安庁「118」への緊急連絡も素早く行うことが可能です。海上でトラブルが発生した際に、個人の対処では限界があります。そのようなときの外部への緊急連絡手段として十分に充電された携帯電話を必ず携行してください。また、防水ケース等で水濡れ対策を行なってください。



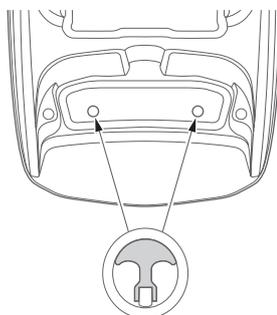
14

航走時はロックの徹底

ウインドやハッチボックスのロック等の対処を確実に行ってください。そのままにしていると他船の引き波などを通過するときに、船がジャンプすることがあります。このようなときにウインドやハッチが開き、収納物が飛散・破損したり、おもわぬ怪我をしたりする可能性があります。



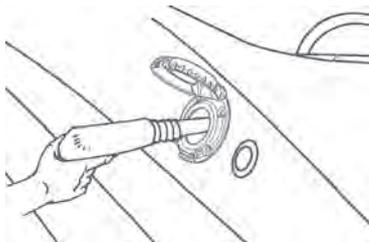
※ハッチロック



15

燃料給油は給油ガンを使用

この艇は給油ガンによる給油を前提としています。携行缶による給油は燃料をこぼしやすいため、できるだけ避けてください。なお、ポリタンクによるガソリンの運搬は法令で禁止されています。



AR240の航走特性について

スポーツボートならではの旋回特性

スポーツボートは水流への抵抗（ラダー）などを利用して旋回するのではなく、ジェットノズルの噴流の力で旋回します。噴流を使った切れ味鋭いターンもプロペラボートにはない優れた個性です。

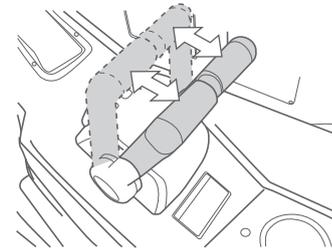


1

低速時の舵切れ特性について

このボートはジェット推力によって航走方向を変えるため、船外機艇などとは異なる回頭（舵きれ）特性を持っており、当て舵の徹底とスロット調整が舵切れの重要な要素となります。着岸の基本は極力最低速とし、舵切れが良くない時は**少しスロットルを吹かして**船の向きを強制的に補正し、船の向きが直った時点で最低速に戻すようにしてください。

操作が上手くいかない場合は別頁に示す「**ノーウェイク機能**」を活用してください。

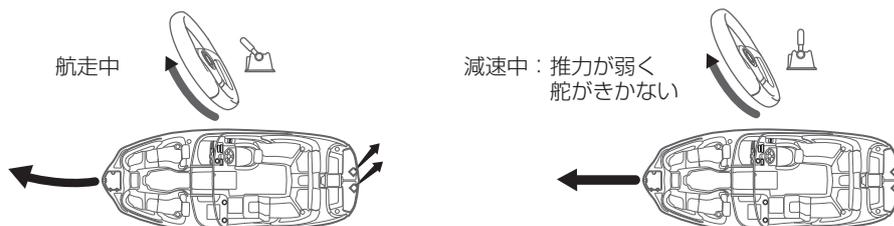


2

減速時の注意

ジェット推進艇は急減速するとジェット推力が惰性力よりも劣る状態となり、舵を切っても十分な進路変更ができません。他船舶や障害物がある場合は十分に離れた地点から、減速あるいは針路を変更しましょう。

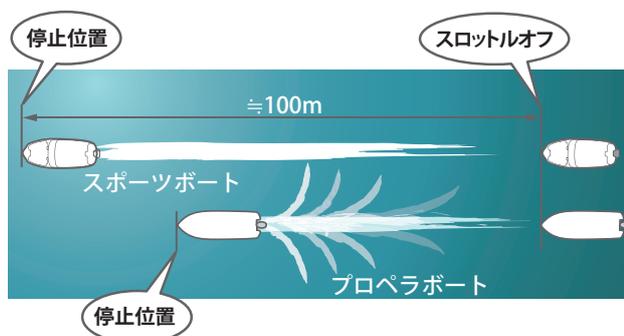
目の前に突然、障害物が出現した場合は、スロットルを極端に落とさず転舵してください。



3

惰性航走について

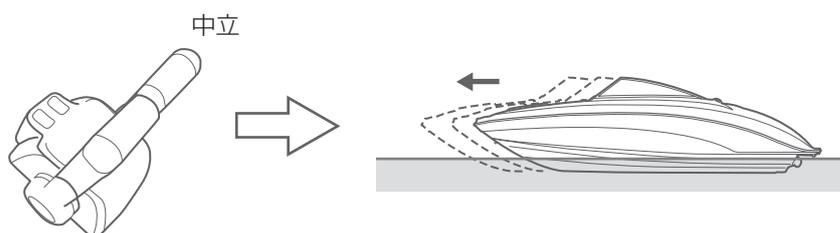
全開航走状態から急停止しても約100mほど前進します。上記2.で示した急減速の注意を合わせて念頭に置き、早めの操作判断を心がけましょう。



4

リモコン中立時の特性

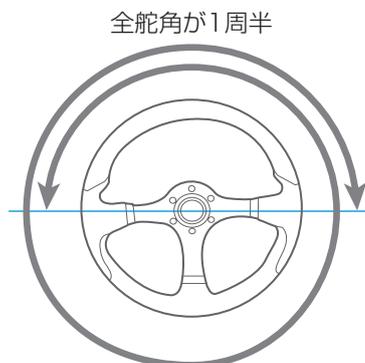
リモコンが中立位置にあっても推力装置内のインペラーは回転しているため、弱い推力が発生します。桟橋に止めておく場合は、エンジンを停止しましょう。



5

ハンドル転舵について

ハンドルの操作が1周半で全転舵ができ、通常船外機艇の約半分の転舵でフル舵角の操作ができます。

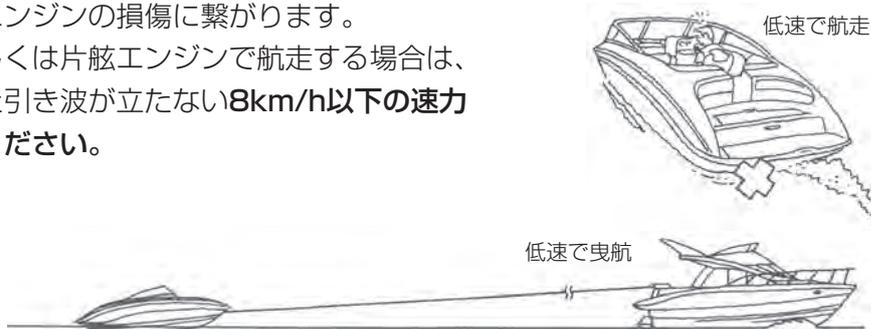


6

曳航もしくは片舷エンジンのみの航走は低速で

ジェット推進システムではエンジンが停止している状態で水面を高速で走らせると、冷却用の経路から排気経路を通じてエンジン内に海水が流入する恐れがあり、重大なエンジンの損傷に繋がります。

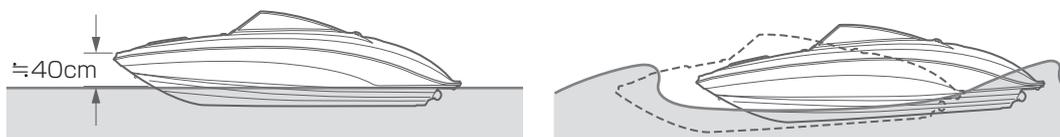
曳航もしくは片舷エンジンで航走する場合は、目立った引き波が立たない**8km/h以下の速力**にしてください。



7

波高40cm強の海面の走り方

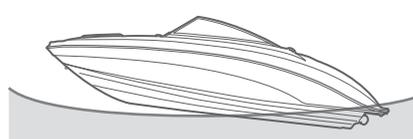
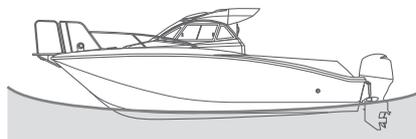
AR240の浮きなり状態での船首乾舷は40cm程です。波高40cmを超える海面で航走すると航走速力/波に対する船の向き/乗船者の座る位置によっては、船最先が波頭に潜ることもなります。そのような海面を避けることが大切ですが、止むを得ずそのような海面に遭遇した場合には以下の操船を心掛けてください。



一般的には、波浪海面では速力を落とすことが最優先されますが、この種の船（パウライダー）は速力を落とし過ぎることで船最先が波頭に潜ることがあります。荒れた水面を走る必要がある場合では、船最先が一番上がる**4000rpm**でのエンジン出力で航走してください。波頭への船最先潜りを軽減でき、中速であるためジャンプする度合いも抑えることができます。

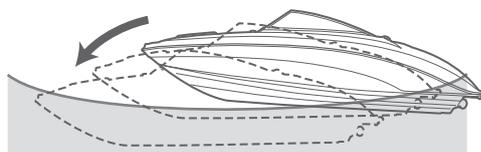
※一般艇：基本は減速

※パウライダー艇：適切な速力



(AR240=4000rpm)

他船の引き波を横切の場合に極端な減速を行なうと、船首が下がる動きも加わり、瞬間的には船首の乾舷が30cm程にまで低くなります。引き波の横切りにおいても**4000rpm**の出力を保ってください。



なお、この走り方はあくまでも止むを得ずこのような海面に遭遇した場合に備えての知識です。このような状況にならないように、予め気象・海象状況を十分に調べて出航を判断してください。

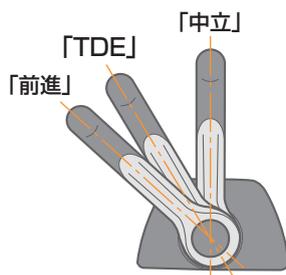
8

低速時の舵効き向上機能の活用

AR240は低速時の舵効きが改善されています。リモコンレバーの「中立」と「前進」の間に「TDE」が設定されており、下記に示す「TDE」位置にリモコンレバーをセットし、次ページの「ノーウェイクモード」を活用して、エンジン回転数を任意の回転数に設定することで、低速状態でも高い舵効果を得ることができます。

<リモコンレバー位置の設定>

「中立」位置から前に倒し、前方の「前進」位置手前のディテント（嵌まり込み感のある収まりの良い位置）で止める。



※TDEとは、「Thrust Directional Enhancer」の略であり、この位置にリモコンレバーを止めて、次ページのノーウェイクモードを使って電氣的にエンジン回転数を上げることによって、低速状態で舵効果を得ることができます。

TDEについて

TDE (The **T**hrust **D**irectional **E**nhancer) は低速時の推力の指向性を高め、ステアリングの応答性、保針性を向上させます。（後進推力を利用し、フィンの様な抵抗効果を発揮させます）

F (前進)	TDE
<p>前進力大</p>	<p>後進力<前進力</p>
N (中立)	R (後進)
<p>前後推力が均等バランス</p>	<p>後進力大</p>

ノーウェイクモードの活用

着岸時には引き波を立てない速力で舵効果を上げることが必要ですが、それをリモコンレバーで調整するのは慣れが必要です。その様なときノーウェイクモードを使用すればスイッチ操作のみで低速時に舵効果を得る微調整を行なう事ができます。

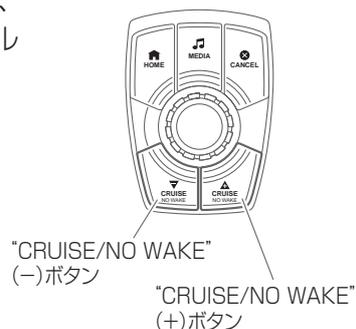
（「ノーウェイク」とは引き波を抑えた低速航走のことです）

低速の舵効きに慣れていないユーザーには有効ですが、スイッチを押すことで速力を高めにしすぎるとハンドル操作が慌ただしくなります。

風の影響度に合わせて回転数を調整してください。

<ノーウェイク回転数の最適設定>

- 狭い水路の低速周遊：2,400 rpm（最低回転状態から3回押し）
- 着岸：
 - ・ 強風時＝2,000 rpm（最低回転状態から2回押し）
 - ・ 微風時＝1,600 rpm（最低回転状態から1回押し）



ノーウェイクモードのエンジン設定回転数

ノーウェイクモード使用時はリモコンレバーを「TDE」の位置にセットしてください。

ノーウェイクモードは約400 rpm 毎にエンジン回転数を調整することが可能です。

風速と自分の技量に合わせて回転数を設定してください。

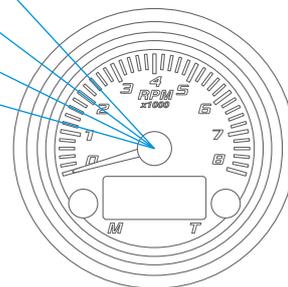
- ※ 微風時は約1,600 rpm、強風時は約2,000 rpmの設定が適切です。

3段目(約2,400rpm)

2段目(約2,000rpm)

1段目(約1,600rpm)

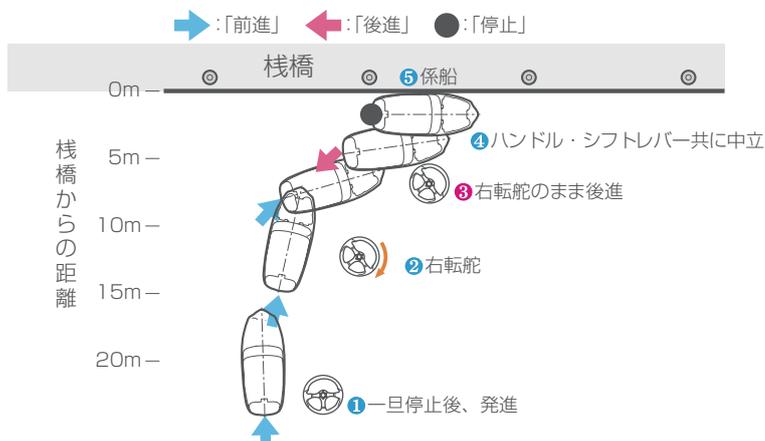
最低回転数(約1,200rpm)



ノーウェイクモードはスロットル域にまでレバーを操作したり、スイッチを最下段まで押すと解除されます。

AR240の着岸について

ノーウェイクモードを活用した上で進入角度や転舵タイミング、そしてシフトの前進後進のコツをつかむと、狭いスペースへのスライド着岸が可能になります。



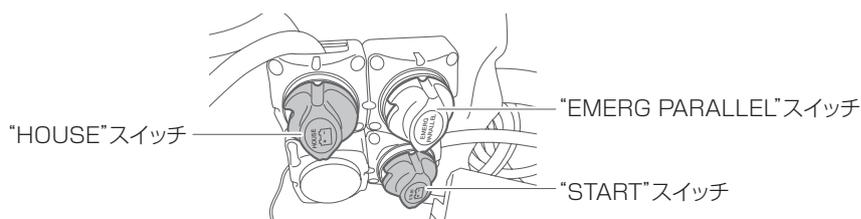
各部の取扱について

1

バッテリーメインスイッチ操作方法

通常のエンジン始動は、HOUSEスイッチとSTARTスイッチを緑の「ON」とし、EMERG PARALLELスイッチは赤の「OFF」にします。

※始動バッテリーが上がった時にEMERG PARALLELを「ON」にします。



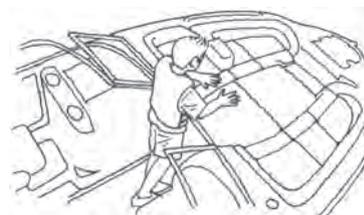
2

フロントシートをフラット状態にする

フロントシートをフラット状態にするには別設定の白色クッション（フィラークッション）の中央をバランス良く持ち、凹み形状に合わせてセットしましょう。（前方シートはバックレストにもなります）

※航行中はフロントシートをフラット状態にしないでください。フラット状態のシートに座った同乗者がバランスを失い、デッキや船外に転落し、重傷や死亡の原因となる恐れがあります。

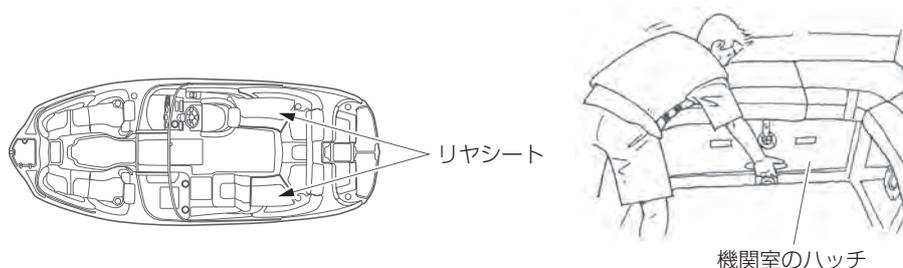
また、操船する前に確実にフィラークッションをしまってください。クッションをしまわないと、風によって吹き飛んだり、操船者の注意がそらされたり、同乗者にぶつかったりなど事故が起こる恐れがあります。



3

操船席後部シートクッションの脱着

リヤシートサイドのクッションの脱着は、機関室のハッチを開けると容易に引き上げることが出来ます。

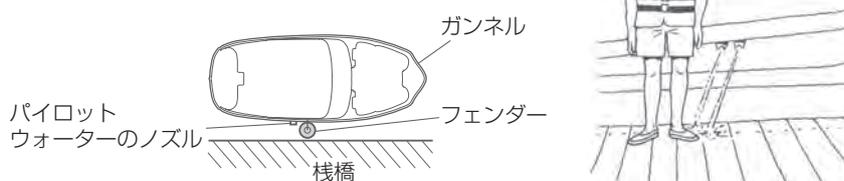


4

パイロットウォーターのノズル先と排水

パイロットウォーターのノズル先がガンネルよりも突き出ているため、着岸や係留時に損傷させる可能性があります。フェンダーを施して防いでください。また、桟橋に船を右舷着岸した状態でエンジンを始動させていると、パイロットウォーターの排水が桟橋にいる人の足元に掛かることがあります。

エンジンを停止したり、桟橋にいる人に注意を促したりして、水が掛からないようにしてください。

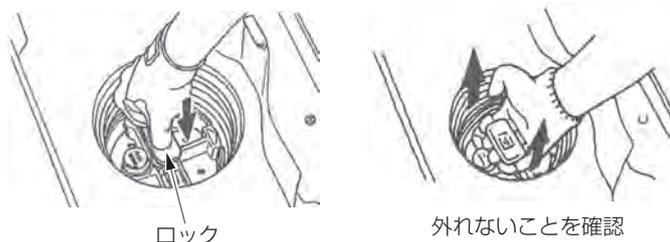


5

ジェットインペラー点検口キャップの取り扱い

ジェット点検キャップが正しくロックされていないと航走中にキャップが抜けて海水が吹き上がり航走不能となる可能性があります。

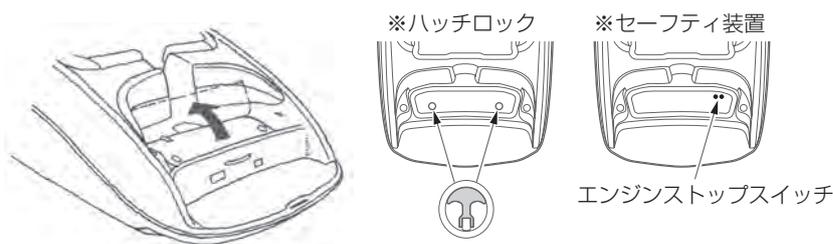
点検キャップを取り付けた後は上方向に引っ張り確実にロックされていることを確認してください。



6

航走時の点検口ハッチについて

運転中は点検口ハッチを開けないでください。セーフティ装置が機能しエンジンが停止します。航走中にエンジンが停止すると舵が利かなくなり、ボートをコントロールできません。この事は同乗者に対しても確実に伝え、勝手に点検口ハッチを開けないように指導してください。また、運転前には点検口ハッチが確実にロックされていることを確認してください。

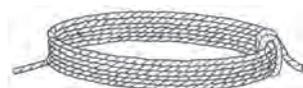


7

ロープ整理の徹底

係船ロープやウエイク等の牽引ロープを海上に垂らしたまま走ると、インテークのスクリーンを通過してプロペラシャフトに絡み付くことがあります。絡みついた時の船速やロープの種類、絡み付き方によってはロープを切って排除できないほど固着してしまう場合があります。

ボートが大きく揺れたり旋回を繰り返したりしても、海上に垂れ落ちる事の無いようにロープの端を結ぶかロープをコイルして船内に整理しておきましょう。



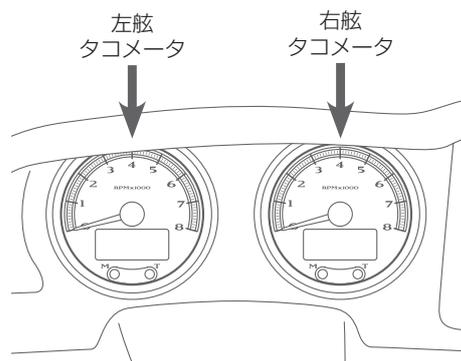
8

クルーズアシストモードの活用

プレーニング航走中にエンジン回転数を一定に保つためにはスロットル開度を常に微調整する必要があります。

その様な時に、このクルーズアシストモードを使用すれば、**スイッチ操作のみで細かな回転数設定が出来ます。**

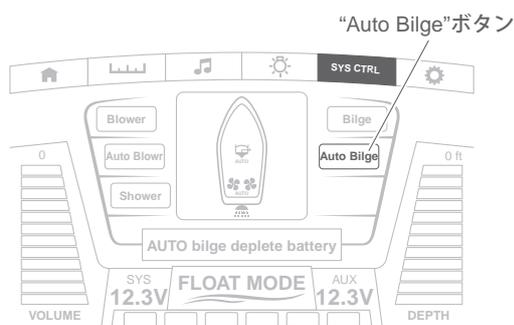
※但し、使用範囲は3000rpmから7000rpmです。また使用する際は、左右のエンジン回転を同一に調整してから開始してください。



9

係留保管は出来ません

AR240は完全な自動排水艇ではないため、短時間に多量の雨が降ると排水口の排水能力を超え、船内に水が入るなどの現象が起こります。係留時に強い雨が予想される場合はオートビルジポンプを押して自動排水させてください。



ボート遊びの新スタイル

YAMAHA Marine Club
 Sea-Style